

## 第64回ジュニアソフトボール大会 大会規定

### 1 遵守事項

本大会は、小学生児童が選手として参加しており、選手並びに保護者を始めとする関係者の健康と安全を確保するため、以下の点について理解した上で参加してください。

- (1) 雷鳴が聞こえた場合、**実行委員会の判断により、試合を中止又は中断します。** ※詳細別紙参照
- (2) WBGT(暑さ指数)が大会中に 28 度以上に到達した場合は、場内放送を行い、個々の子どもの様子を確認するとともに、危険であると判断した場合は当該子どもの活動を中止し、直ちに救護所へ案内します。
- (3) WBGT(暑さ指数)が大会中に 31 度以上になった場合、試合を中断します。

### 2 試合方法

#### (1) 男子の部

第1日目は、予選リーグ戦方式とし、第2日目はトーナメント方式で上位4チームによる準決勝及び決勝戦を行います。

#### (2) 女子の部

出場チームが4チーム以上の場合は、予選リーグ戦方式とし、3チーム以下の場合は2日目にリーグ戦を行います。

#### (3) 順位決定方法

- ① 勝利数が多いチーム(引き分けは、0.5勝)を上位とします。
- ② 勝利数が同数の場合は、直接対戦結果の勝者を上位とします。
- ③ 直接対戦結果が引き分けの場合は、得失点差で得点が高いチームを上位とします。
- ④ 失点率が同率の場合は、選手9人による抽選とします。

#### (4) 試合時間等

男女とも試合時間は60分とします。

男子は7イニング、女子は5イニングを超えて新しいイニングには入りません。

※最終イニング終了時で同点の場合は、試合時間内であればタイブレーク(ノーアウト2塁からイニング開始。なお、その場合の2塁走者は、前イニングの最終打者とする。)を採用して延長戦を行うが、試合時間を経過してなお同点の場合は、以下のとおり勝敗を決定します。

- ・リーグ戦の場合……引き分け
- ・3位決定戦の場合……抽選により決定
- ・1位決定戦の場合……勝敗が決まるまで延長戦を行います

#### (3) コールドゲーム制の採用について

準決勝戦及び3位決定戦は、5回以降7点差のコールドゲーム制を採用します。

### 3 チーム編成等

#### (1) 編成

箕面市ソフトボール協会に登録したチームに在籍する小学生20人以内で編成された男子及び女子チームとします。ただし、試合の出場は小学3年生以上とし、小学1・2年生についてはベンチ入りのみ認めます。

また、男子チームに女子の登録を認めます。この場合、試合への出場は4名までとします。ただし、女子チームとの二重登録は認めません。なお、女子チームの編成は女子のみとします。

#### (2) ベンチ入り

引率責任者1名、監督1名、コーチ2名、選手20名(小学1年～6年)以内とします。

引率責任者と監督は成人、コーチに限って高校生以上とします。

※「監督」「コーチ」を明記した腕章を着用することとします。

1・2年生のベンチ入りについては各チームで責任をもって指導徹底してください。

### 4 競技規則

2024年オフィシャルソフトボールルールに基づいて行います。

※一部ローカル・ルールを採用します。

### 5 競技場

(1) 投手距離 10.67m

(2) 塁間距離 16.76m (本塁 ~ 2塁 23.70m)

### 6 服装・用具等

#### (1) 服装

① 体操服、又は野球のユニフォームなどで全員統一されていることとします。

また、体操服には、チーム名、番号が入ったゼッケンを背中に付けることとします。

野球のユニフォームで、チーム名、番号がある場合は、ゼッケンはいりません。

② 帽子は、赤白帽または同一の野球帽とします。

③ 靴は、運動靴とします。(ポイントシューズ可)

#### (2) 用具等

① バットは、1～2号用で検定マーク入りとします。

② ボールは、2号球を使用します。

③ バッター、ランナー及びランナーコーチの選手は必ずヘルメットを着用してください。

④ 捕手は、捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター及びレガースを着用してください。

(注1) 捕手用ヘルメットはJSA検定マークが入っているものに限る。

(注2) 捕手用マスクはSGマークが入っているものに限る。

※SGマークとは、一般財団法人製品安全協会の定める基準に適合したものを指す。

## 7 試合のルール等

- (1)再出場（リエントリー）制を採用します。  
スターティングプレイヤー（先発選手）は、一旦試合から退いても、一度に限り「再出場」できます。
- (2)指名選手（DP/FP）制を採用します。
- (3)ランナーコーチは、大人も認めるが、選手はヘルメットを着用すること。
- (4)選手交代の通告は、監督が行うこととします。
- (5)ルールで認められた抗議は、監督が行うこととします。
- (6)監督のタイム要求による打合せは、攻撃側は1イニングで1度限り、守備側は1回から7回（5回）までの間で3度までとします。
- (7)試合時のベンチは、組合せ表の左側が1塁側です。
- (8)打順表は、第1試合出場チームは受付時に、そのほかは試合開始予定時刻の30分前までに本部に提出してください。
- (9)決勝戦では、試合の前にそれぞれのチームに5分間、シートノックの時間を設けます。
- (10)次打者は、次打者席内で待機する。なお、安全面を考慮し、打席にいる打者が右打者の場合は、三塁側、左打者の場合は、一塁側の次打者席で待機する。

## 8 ルールの留意点

### (1) アピールプレイ

審判員が監督、コーチ、プレイヤーに要求されるまで判定をすることができないプレイで正しい投球、不正投球にかかわらず次の投球動作に入る前になさなければならない。

- ①走者が塁を空過したとき
- ②飛球に対して走者の離塁が早すぎたとき
- ③打順誤りがあったとき
- ④打者走者が一塁通過後に二塁へ向かおうとしたとき
- ⑤無通告交代したとき
- ⑥代替えプレイヤー違反があったとき
- ⑦再出場違反があったとき
- ⑧DP違反があったとき⑨タイブレークの走者にルール違反があったとき。

### (2) 打者が打者走者になる場合

- ①ヒット、四球、死球、打撃妨害のとき
- ②3ストライクルール（振り逃げ）

※捕手が第3ストライクを捕球できなかった場合でも、無死・一死で走者が一塁にいるときは、振り逃げとならず打者はアウトとなりますが、試合はインプレイの状態(全てのプレイが成立)となります。

(3) 走者の安全進塁権

- ① 投球が競技場外へ出た場合、投球時に占めていた塁から1個の安全進塁権
- ② 送球が競技場外へ出た場合、送球が野手の手を離れたとき占めていた塁から2個の安全進塁権

(4) 走者（打者）がアウトになる場合

- ① 打者が1塁に触れる前に身体又は1塁に触塁したとき（同時はセーフ）
- ② 投球が投手の手から離れる前に走者が塁から離れたとき
- ③ スリーフットレーンの外側を走って守備を妨害したと審判員が判断したとき

(5) インフィールド・フライ

無死または1死で、走者1・2塁もしくは満塁で、内野に打ち上げられた飛球を野手が容易に守備できる飛球のこと。打者はアウトを宣告されます。

(6) ダブルベース（1塁の白色・オレンジ色）

- ① 打者が1塁に走り、1塁でプレイが行われる場合は、オレンジベースに触れなければならない。（白ベースの時は空過となる）
- ② オレンジベースを走り越した後は、白ベースを使用します。
- ※1塁でプレイが行われない時は白かオレンジベースのどちらでもよい（2塁打など）
- ③ 守備側のプレイヤーは、常に白ベースを使用します。

(7) 投球に関すること

投手は投手板以外の地面を蹴って投球してはならない。

(8) 20秒ルールについて

試合のスピードアップを目的に規定されたルールで、投手は球を受けるか、球審がプレイの指示をしたのち、20秒以内に次の投球をしなければならない。20秒を超えると、1回目は審判から投手に、2回目は監督及び投手に注意を与えます。それでも改善されない場合は、「ボール」が宣告されます。

(9) 故意四球

守備側チームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が球審にその旨を通告することをいう。

(10) テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、投手・捕手が出塁し、走者となったとき、投手・捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。

※テンポラリーランナーは塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者とする。

9 注意点

- (1) 選手は、試合開始予定時刻の30分前には集合してください。
- (2) 育成者は、子どもの育成者としての自覚を持ち、子ども達の模範となること。目に余る言動があった場合は、その試合の主審と副審の協議により警告処分や退場処分を行うことがあります。

- (3) ベンチ内でのメガホンの使用は固く禁止します。
- (4) 連続しての守備時間が長期（10分を目処とする）になった場合、給水を当該審判員により指示することがあります。
- (5) 選手の体調が優れないと審判員が判断した場合は、試合を止めて所属するチームの監督に選手の交代を促します。また、事務局が審判を通して同様に選手の交代を促すことがあります。
- (6) 男子の部の1位決定戦と3位決定戦は2イニング終了ごとに、審判員から両チームの監督やコーチへ選手の体調確認を行い、体調が優れない選手がいる場合は所属するチームの監督に選手の交代を促します。

## 10 その他

### 大会運営補助について

- ①参加試合において、割り当てられたチームは、補助員を2人選出する。補助員は試合開始15分前に管理棟に集合し必要備品を受け取り、試合開始10分前までに担当コートへ行き待機する。
- ②補助内容は、守備時間10分の計測、ボールふき、審判へのボール渡し及び得点ボードへ記載する。